

外国奉行の巡見 じゆんけん

安政五年（一八五八）十一月、新設

されたばかりの幕府の外国奉行堀織部ほりおりべのしょうしひろ

正・利熙二行一二〇余名が加賀藩領を

訪れた。六月に締結された日米修好通

商条約の履行に備えて、北陸の海岸筋

を見分するためであった。越後国（現

新潟県）から越中国（現富山県）へ入

った一行は、東岩瀬、伏木などを経て

能登へ向かい、所口や輪島を廻り、加

賀の宮腰・本吉など主要な湊を見分し

た後、能美郡へ入り、湊・福嶋・浜開

発を通過して下ノ江で小休、高坂・山

口釜屋・長崎を経て、領内最後の巡見

地である安宅町を訪れた。安宅では昼

休みをとり見分を行った後、安宅新村

を通過して大聖寺藩領へと向かった。安

宅湊での見分は、特に詳細なものでは

なく、通行途中に窺う程度であったよ

うである。

外国奉

行一行を

迎えた安

宅町では、

巡見当日

の休息所

の提供や

応対に加

え、事前

の段取り

や役割分

担の打ち

合わせ、

人口・船

数・交易

品・交通・

産物など



安政年間「安宅町図」（金沢市立玉川図書館所蔵） 朱線が巡見の道筋と思われる。「御小休所」や、海岸沿いに「御台場」の縄張箇所が明記されている。

外国奉行巡見御用の町役人

町名	御用名	町役名	人名
安宅町	御用宿諸事御用主附	町年寄	根上屋八郎兵衛
			甚座屋平兵衛
		町年寄並	米屋半兵衛
			北野屋治兵衛
		御用聞役 町肝煎兼帯	網屋宗治郎
			土門屋半四郎
		町肝煎	網屋小左衛門
	御用宿諸事御用主附 御測量船主附 町御奉行所附	町年寄並	八田屋治郎兵衛
			森下屋理右衛門
	諸事御用主附	横目肝煎	宗左衛門
小松町	御領国中木銭米代受取方 御測量船主附 転馬方主附	町肝煎	新保屋与左衛門
			浅井屋弥次右衛門
	諸事御用主附	横目肝煎	亀屋徳之助
	安宅転馬役所主附	町肝煎	新保屋平助
	御用宿詰切 諸事御用主附	町肝煎	新保屋平助

文久元年「外国奉行通行御用懸り町役人名前書上帳」(『小松市史 資料編2』2000小松市)より作成

当地の概況を記録した書類の提出、宿の設備修理や道普請、必要物資の購入などの対応に追われた。これらにかかる費用の負担は大きく、町の人々だけでは到底^{まかな}賄い得なかったため、必要経費総額の約六割に当たる金額を藩から借用している。しかし、慢性的な米価高騰や不漁、巡見当日の高浪による船橋破損などの臨時入用もあって返済

の見通しが立たず、町ではやむを得ずこの借用金の返済を免除してくれるよう藩に願い出た。ところが藩はこの願いを却下し、引き続き返済を求めた。この時期、藩の財政状況も、海防や藩主の上京等で臨時出費が嵩み^{かさ}、必ずしも余裕がある状態ではなかったのである。

(堀井美里)



安政5年(1858)「算用場拝借銀返済方猶予願」「安宅町文書」(小松市立図書館所蔵)

外国奉行巡見につき安宅町御宿諸費用

内 容	金 額
堀織部正等宿17軒贈品々買上代	8貫120目3分8厘
宿々湯殿・雪隠等新設代(但し売払代を差し引いた残銀)	6貫179匁6分2厘
道造り等人夫2,800人賃銀(1人につき2匁)	5貫600目
測量船10艘および河道普請費用	465匁
宿々入用木具類・ゆかた・火鉢・折桶等代(但し売払代を差し引いた残銀)	1貫504匁
紙・墨・蠟燭買上代および問い合わせのため越中泊駅までの旅費	1貫250目
通し日雇250人のところ400人余賄入用米等代	526匁
料理人料代	391匁
小松町より髪結等・亭主給仕人へ心付	1貫655匁9分
高浪につき船橋代船・畳代など不時入用銀	1貫630目
加賀藩より付添い役人の宿入用銀(半額負担)	2貫145匁
馬小屋4か所建造および飼馬代	1貫195匁2分4厘
合 計	30貫662匁1分4厘

万延元年「外国奉行巡見宿用意入用帳」(『小松市史 資料編2』2000小松市)より作成